みらいつうしん

6月号

２０２５年６月１日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長　勝浦芳子

子どもの思いと集団生活

６月に入り、紫陽花が美しく色づく季節となりました。入園・進級して約２か月が経ち、子ども達も、みらいこども園の生活に少しずつ打ち解けてきている様子が感じられます。「先生おはよう」「〇〇ちゃんおはよう」と自然に挨拶もできるようになって、とても嬉しく感じます。また、好きな遊びを見つけては、個々に楽しみを見つけているようで、園庭では、ダンゴムシをはじめ、いろいろな虫を探したり、泥団子を作ったり、砂場で大きな山やケーキや食べ物を作ってお店屋さんごっこをしたり、水と葉っぱを使って色水を作って楽しんだり、マルチパネや板を使ってお家や基地を作ったりと、滑り台やジャングルジムなどの固定遊具以外でも、子どもの遊びがあふれています。見ているだけでも、楽しさが伝わってきています。また室内の遊びでも、いろいろな廃材や材料を使って、製作をしたり、ブロックを上手に使って好きなものを作ったり、学年が上がるほど、その表現力は、大人顔負けのものがあります。このように好きなものに向い、自分で何かを作り出す能力は、この幼児期に培われるのだなと改めて感じています。

集団生活には、ルールや人との関わりがありますので、すべてが自分の思い通りになることは不可能です。時には、遊びに夢中になりすぎて、片付けや遊びのルールを理解できなかったり、友達と遊具の取り合いになったり、友達とのやり取りの中で、自分の気持ちを伝えられなかったり、また相手の気持ちがわからず、相手を傷付けてしまうなど、葛藤することが出てきます。みらいこども園は、お子さんの気持ちに、寄り添うことは大切にはしておりますが、人間形成の基礎を培う、大切な教育も担っておりますので、「なんで」「どうしてなの？」という問い掛けに、丁寧に理由を伝え、ルールの大切さ、人との付き合い方が理解できるよう、時間をかけて行っています。この葛藤こそが、お子さんのものの考え方の基礎になっていきますので、周囲の大人は、子どもの思いをただ受け止め好きなようにさせるのではなく、一つ一つ、「これはこういう理由でこうなんだよ」と、根気よく伝えることが大切に思います。どうぞ、ご家庭でも、丁寧にお子さんの「なんで？」という疑問や行動に真剣に向かい合い、将来、どんなことが起きても自分の力で生き抜いていけるよう導いてあげてください。

梅雨に入りますと、遊ぶ場所も限られてまいりますので、お子さんの気持ちをより理解しながら、保育内容も工夫していきたいと思います。

夏野菜の苗を植えながら歓喜の笑顔！

この時期恒例の子ども達のお楽しみ。そら豆のさやとり

子ども達と砂利やヒツジグサを入れてメダカの快適な池づくりをしています。